

第1回学校評議員会・学校関係者評価委員会まとめ

日 時：令和7年7月2日（水） 午前10時00分から午前11時45分 於校長室

出席者：加藤 雅久 氏（東海学園大学 学園事務局 大学事務局長）

加藤 俊春 氏（（有）日進書房、同窓会）

内藤 幹洋 氏（日進市立日進東中学校長）

玉井 明子 氏（前PTA会長）

近藤 武志 氏（PTA会長）

三林 美穂子氏（PTA副会長）

内 容 校長あいさつ

自己紹介

授業視察

近況報告

意見交換

校長謝辞

委員からの意見等

- ・授業を見て、先生と生徒の距離が近く、生徒を見守っている感じが伺えた。生徒の実情に合った教育をすることは大学でも課題となっている。個に応じた指導が大学でも求められている。多様な学校の取り組みを参考にしたい。
- ・生徒が授業中、緊張していなくリラックスしている。先生のコミュニケーション能力を駆使し、（自分が学生だった時と）全く違う授業が展開されている。とても良い環境と感じた。
- ・生徒の人数に対して教員が複数配置されており手厚い教育がされている。日進高のイメージがこれまでと変わってきており、今や入れないからでなく日進高を選んで入ってくる選ばれる学校となっている。地域に根差した必要とされる学校となっている。
- ・親の見栄として不登校の子は恥ずかしい。みんな違っていいという世の中だが、大人は子供に学校に行ってほしいと思っている。日進高がそのような場所となって親として安心できる。一方、先生たちの手厚い指導が負担となる生徒もいる。負担とならない手立ても考えてもらえるとよい。
- ・教員の複数配置に驚いた。手厚い、さばらせない体制は素晴らしい。附属中が開校されることで先生たちは大変かと思うが、今後も協力していきたい。公立高校の人气が下がっている中、公立の魅力をどう作っていくか注目したい。また、生徒に対してお客様扱いになることは懸念している。
- ・3年にいる兄は中学時は成績が悪かったが、日進高にきて部活等で意欲的になった。その兄を見て妹も今年入学したが、話すことが苦手。話すことが苦手な生徒への配慮をお願いしたい。